

普及活動情勢報告（令和5年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

GAP点検で安全な農作業を！！ ～JA土佐くろしお きゅうり部会中間検討会～



説明する普及指導員

3月9日、JA土佐くろしお大間集出荷場で、令和5園芸年度きゅうり部会中間検討会が開催され、生産者30人が出席しました。
当課からは、部会で取り組んでいる高知県版ガイドライン準拠GAPの取組みについて、点検シートの活用を呼びかけました。また、GAPのうち「労働安全」について、トラクターの転倒防止などを例に挙げて、農作業安全に関する注意喚起を行いました。
今後も当課は、「労働安全」をはじめ「環境保全」「食品安全」のGAPについて啓発を行い、関係機関とともにきゅうり部会の生産性の向上を目指した取組みを支援していきます。

アシストスーツの活用について ～スマート農業の推進～



アシストスーツを着用し、苗箱を移動させる作業員

3月20日、JA土佐くろしお育苗センターで働く12人に、当課所有のアシストスーツについての説明、試着を行いました。
12人のうち、75歳以上の2人はアシストスーツのことを知っており、「水稻の苗箱を移動させる時に腰に負担があるため使ってみたい」とのことで、試着後に貸し出しました。
今後も当課は、関係機関と連携して農業者にアシストスーツの活用を勧めていきます。

良いニラを楽に、早く、安全に出荷しよう！ ～ニラの調製作業の改善事例を紹介～



改善事例を説明する普及指導員

3月27日、29日に、JA土佐くろしお営農指導員と当課職員が、そぐり機導入農家4戸を対象に、『そぐり機の使用実態調査結果』を情報提供しました。
当課は、機械に流した際に良いニラが落下するのを抑える設定や、注意点、農家の工夫事例について資料を用いて説明しました。
巡回した農家からは、「他の家の風圧の設定値を知りたい」「そぐり機の防音対策に取り組んでみたい」といった声が聞かれました。
今後も当課は、品質の良いニラを楽に、早く、安全に出荷することにつながるよう、作業改善の取組を支援していきます。

茶産地の維持・発展に向けて ～津野山茶生産組合総会～



振興計画の内容を聞く参加者

3月29日、津野町役場西庁舎大ホールで津野山茶生産組合総会が開催され、関係機関と生産者の総勢24人が参加しました。

津野町では、町の茶産地維持に向けた指針を定めた「津野町茶業振興計画」を令和5年3月に策定しました。策定に当たっては、町内の茶生産者や販売事業者等との協議を重ね、当課も各協議に参加して助言、情報提供を行いました。

総会の中で、津野町茶業振興計画の内容について津野町役場産業課が説明しました。

今後も当課は、津野町茶業振興計画の実現に向けた取組を支援していきます。

津野山地域での多様な担い手の確保を！～担い手の確保に関するアンケート調査結果を共有～



アンケート結果を見る参加者ら

3月30日、JA高知県津野山園芸部役員会が開催され、役員や関係機関職員など、12人が出席しました。

当課からは、12～3月に実施した「津野山地域の担い手確保に関するアンケート調査」の集計結果を報告しました。

経営者が60代以上の農家が全体の約65%を占めることや、「今後10年以上営農を継続する」と回答した農家が約39%、「後継者がいない」と回答した農家が約60%であることなどの実態から、津野山地域の園芸産地の存続に危機感を覚えた役員もいました。

当課は今後、関係機関とともに、園芸部役員会に対して、担い手の確保につなげるハウスの流動化等についての提案・協議を促していきます。

作物の垣根を越えた交流を ～須崎市認定農業者連絡協議会役員会～



熱心に議論をする委員

4月7日、須崎市総合保険センターにて、須崎市認定農業者連絡協議会役員会があり、認定農業者10人、関係機関5人で総会開催について協議しました。

会長より総会の日時や活動内容、会員への周知方法について話があり、当課からは研修会の内容について提案を行いました。

委員からは、「情報収集のため、今年度も全国の農業担い手サミットへ参加したい。」「役員が中心となり、研修会等への参加呼びかけをして欲しい。」等の意見がありました。

今後も当課は、引き続き須崎市認定農業者の活動を関係機関と協力して支援していきます。



SAWACHI について説明する普及
指導員

4月12～13日に、JA 土佐くろしお本所・久礼支所・浦ノ内支所の3出荷場で、増量期の出荷後半の品質確保を図るため、きゅうり部会の出荷目慣らし会を部会員33人が参加して開催しました。

当課は、環境測定装置と炭酸ガス発生装置の導入を啓発するとともに、SAWACHIの加入について説明しました。

参加者から、「炭酸ガス発生装置を導入し厳寒期収量が向上した」「SAWACHI加入を検討したい」などの意見がありました。

今後も当課は、個別巡回や部会総会で、IoP実証結果を紹介し、環境測定装置と炭酸ガス発生装置の導入、SAWACHIへの加入促進に取り組んでいきます。